

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 ・ 柏税務署

柏市長賞

笑顔を守る税金



柏市立酒井根中学校 第3学年 福井 咲葉子

昨年、祖母が「足が痛くて歩けない。」と急に言い出し、家族が介護保険を申請した。このとき、私は介護保険というのは「自治体から介護が必要ですよ」と認定されて初めて受けられる公的サービスシステムだと知った。

無事にケアマネージャーが付き介護計画を立ててもらい、祖母は杖とベッド横に手すりをレンタルした。それ以外に食事の宅配サービスやデイサービスなど介護認定によって受けられるサービスが変わるらしい。「楽になりそうで良かった。」と安心していたところ、その数か月後に今度は祖父が散歩で転んで骨折し救急搬送された。骨折が肩と肋骨だった祖父に対して、病院から介護認定を受けるようアドバイスがあり、祖母と同じケアマネージャーがすぐに担当になり様々な手続きが行われた。祖父はその後手術をして肩に人工関節を入れるなどかなり大がかりな事態になったが、色々なサービスをお願いして、今では無事に退院し助けられながら日常を送っている。そんな騒動があったので介護保険のありがたさを両親は痛感したようだ。

その介護保険は財源の半分が税金であり、残りは四十歳以上の人が支払う介護保険料だということを知っ

たのはその後のこと。私はまだ介護保険料を支払っていないが、これ以外にも税金のおかげで成り立っているサービスを利用していることがまだまだあるのではないかと改めて気付かされた。例えば私達が買い物をした時に支払う消費税。これが何に使われているのか調べてみたところ、一番使われるのは社会保障費、つまり年金、介護、医療、子供・子育て支援なので、スバリ私に関係がある。自分の払った消費税がまわりまわって自分や家族を助けている、これは未成年の自分にとって「社会に貢献している」といえるのではないだろうか。

祖父母は年を取っているため、可能性がたまたま高かったのだが、父でも母でも私でもいつ何があるかわからない。生活の保障が公的システムでサポートされるのはとても重要なことだと考えている。今、税率が高い、と様々な声を新聞やニュースで見聞きする。しかし、これだけ物価を含めて様々な物が値上がりしていれば税率が上がってしまうのは仕方がないこととも思う。もちろん用途を見直す必要はあるかもしれないし精査も大切だと思うが、今受けられている補助の手をいきなり手放すようなことがあつてはならないだろう。

日本国憲法第二十五条で「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」と定めていて、私たちの生存権は憲法により保障されている。税金はその「生存権」を守る一番の要ではないだろうか。助けを必要とする人に等しく手が差しのべられるように、そのための財源として税金が必要なことはゆるぎないことだと私は思っている。